

季刊

弥生の出雲王に会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOI NOMORI MUSEUM



マスコットキャラクター
よすみちゃん

第5号 (2012年4月)



★インフォメーション

●出雲弥生の森まつり2012 開催します!

4/28(土)のイベント

★オープニング 9時30分

・アトラクション

「三谷神社子ども獅子舞」

・大津小学校児童による古代体
験学習発表会

★館長のお話

「発掘調査は大変だ!」

10時15分〜11時15分

★職員ミニリレー講座

14時〜15時

・神門寺付近遺跡(須賀照隆)
・聖谷奥一遺跡(景山真二)

★博物館の内部を大公開!

15時〜

博物館の舞台ウラを特別に公
開します。(1時間程度)

★よすみちゃんの謎解きクイズ

13時〜16時

正解者にはプレゼント!

■にぎわいコーナー

10時〜15時

【有料】

お茶席、屋台村(ラーメン、唐揚、
綿菓子、ジュース等)、お花販売

よすみちゃんのマイバッグ作り、
ヤマメの塩焼き

【無料】

こども手芸教室(ペットボトル花
かご作り、木の実のリース作り)、
まてばしい飛ばし、フリーブロー

4/29(祝・日)のイベント

★職員ミニリレー講座

14時〜15時

・半世紀の眠りから覚めた
「長谷川コレクション」

(花谷 浩)

・鰐淵寺調査

(石原 聡)

★博物館の内部を大公開!

10時〜、11時〜、15時〜

★よすみちゃんの謎解きクイズ

13時〜16時

■古代出雲歴史博物館

出張体験コーナー(有料)

■荒神谷博物館

出張体験コーナー(無料)

13時〜16時



昨年のように

●夏季特別展(予告)

「よみがえるな!」

―中村古墳のお葬式―

7/14(土)〜9/24(月)

9時〜17時(入館16時30分まで)

(火曜休館/祝日の場合は翌日)

(8/14(火)は開館します)

*観覧料 有料(高校生以下無料)

出雲市国富町の中村古墳は、六
世紀末〜七世紀初頭の有力豪族
のお墓です。慎重な発掘調査の結
果、西日本では珍しい未盗掘墳で
かつ、横穴式石室は最も良好に残
っていることがわかりました。副
葬品は約二百五十点出土し、その
中には豪華な飾りをもつ大刀や
馬具があります。そこで、全国的
に有名な奈良県藤ノ木古墳や、島
根県内の古墳の副葬品などと比
べ、中村古墳を紹介します。
また、中村古墳のお葬式の流れ
を展示します。特に、埋葬が終わ
った後(約十数年後)に「よみが
えるな!」の祈りのもと、棺や副
葬品が壊されたようすを示します。
そこから、当時の出雲の人が死に
対して抱いていた考えに迫ります。

★特集 研究ノート⑤
古代出雲のものづくり

今年、『古事記』編さんから一三〇〇年の節目の年に当たります。今回の企画展では、『古事記』が編さんされた奈良時代の出雲の「ものづくり」に注目します。

「古代出雲のものづくり」と聞いて、何をつくる光景が思い浮かぶでしょうか。古代出雲といえば、玉作りや鉄生産をイメージする人が多いのではないのでしょうか。しかし、奈良時代の玉作りは水晶の平玉の製作が中心となり、出雲国府や松江市玉湯町周辺だけに生産の場は限られました。また、鉄生産についても限られた場所に限られた人々によって行われたので、奈良時代の出雲の人々にとっては身近な「ものづくり」ではなかったのです。

それでは、奈良時代の出雲の人々にとって、身近な「ものづくり」とは何だったのでしょうか。平安時代の法典『延喜式』によれば、出雲国から都へ税として運ばれる品々の多くが、イカやノリなどの海産物と絹織物や糸（染色されたものを含む）・真綿などの繊維

製品であることが分かります。遺跡の出土品としては多く残っていませんが、平安時代の出雲国は絹や布（苧麻や大麻）を織ることが「ものづくり」の中心だったので、それは、奈良時代も同様だったと考えられます。

ひとことで織物と言っても、織機にかける糸作り、あるいは桑や麻の栽培など、かなりの時間と労力が必要であったことは言うまでもありません。『出雲国風土記』には、出雲大川（現在の斐伊川）周辺が桑・麻のよく実る土地だったという記述があります。奈良時代の出雲平野の村々においても、糸作りの光景が見られたことでしょう。



今回の企画展では、「織る」を中心的な展示としています。織物に関する出土遺物の断片から想定される当時の工程は、現在に伝わらないのです。奈良時代のものづくりには、現代につながる「ものづくり」の原点を見ることができ



青木遺跡出土の機織りの道具（写真提供：古代出雲歴史博物館）

また、企画展関連の講演会では、ものづくりと流通との関係のお話をしていただきます。

常設展示室の古代のコーナーに、「神門郡朝山郷交易雑魚腊一斗」と記した平城宮出土の荷札があります。これは神門郡朝山郷（現在の出雲市朝山町）からの税として、雑魚の干物（腊）に付けられて都へ送られたものです。注目されるのは、「交易」とあることです。つ

まり、雑魚の干物は交易によって調達されたのです。『出雲国風土記』には、「大小の雑魚・浜藻、家に鬮（み）ち、市人（いちびと）、四（よ）もより集いて、自然に塵（みせ）を成せり。」という記述があります。これは、朝酌の促戸（あさくみのせと・現在の松江市朝酌町）の情景を述べたものですが、市人が各地から集まったことが知られ、奈良時代の出雲では物品の流通が存在したことが分かります。木簡や『風土記』は雑魚の例ですが、布などの品々についても、同様に交易されたと考えられるのです。

（高橋 周）

二〇二二年春季企画展

「古代出雲のものづくり

―織る・塗る・熔かす・焼く―

現在開催中 5/14(月)まで

観覧料：300円

（高校生以下無料）

★新シリーズ

●博物館のお仕事紹介①
「文化財の写真撮影」

文化財課の仕事の一つに、「文化財の保護」があります。これは文化財課の核となる理念で、今回はその中の写真撮影について紹介します。

文化財写真の対象は、遺跡や遺物、建造物、古文書などさまざまです。これらの現状を、明瞭かつ精緻に写し込み、また、質感をもとらえることが求められます。ブレやピンボケ、データ量不足などがあつてはいけません。撮影に成功した写真は報告書や博物館の図録やポスターなどに使われます。文化財課では重要な撮影対象の場合、大判カメラで撮影します。



デジカメ（左）と大判カメラ

フィルムサイズは、四×五インチで、三十五ミリの十二・五倍の大きさです。最新型の高額デジカメよりも高画質の写真が残せます。先日の三月二日と二十六日に、

出雲大社御本殿の修理状況の撮影をしました。御本殿の修理が終わった状況を写真に残すためです。修理用の足場が無くなれば、近距離撮影は二度とできません。チャンスは一回です。御本殿が大きく、一枚に全体を入れることには苦労しましたが、真新しい屋根、黒い棟と千木の美しい姿を写すことに成功しました。今回撮影した写真が、六十年後の遷宮にも活用されればと思います。



(坂本豊治)

出雲大社御本殿の写真撮影。
大判カメラで、かぶり布(写真の赤い布)をかぶってピントを合わせ撮影。

★出雲市のお宝紹介④

(指定文化財)

鷲が巣城跡

鷲が巣城跡は、出雲平野の北に連なる北山中央部、出雲市西林木町の標高二八五mの鷲が巣山山頂に築かれている山城です。昭和三十五年（一九六〇）に出雲市指定史跡になり、市内の城跡では唯一の指定文化財です。

発掘調査など詳しい調査はしていませんが、大小の郭（兵を駐屯させる平坦面）が一〇カ所もあり、敵の攻撃を防ぐための土塁（土で築いた高まり）も五カ所認められ、大変な労力を投じて作られた城跡だと分かります。

戦国時代（二六世紀初頭）に宍道氏という武将が治めたのが始まりとされ、永祿四年（一五六一）毛利元就が尼子氏追討のために本格的に築いたと江戸時代の書物『雲陽軍実記』に記されています。

なぜここに城を築いたかは、現在公園として整備されている城跡に登ってみれば分かります。写真は、主郭から出雲平野の東方向を見たところで、斐伊川が一望でき、

宍道湖に注いでいる様をはっきりと見ることが出来ます。目を西に転じると、長浜の先に日本海も見ることが出来ます。つまり、出雲平野の全貌が手に取るように分かり、敵の動きや数など、戦略的に重要な情報をいち早く察知できる、そういう所にこの城跡はあるのです。毛利元就は、尼子氏追討のために築いたのですが、その前提となる出雲平野の武将の動きをけん制する要としての意味もあつたと考えられています。

今回登ってみると結構きついものだと思いましたが、戦国武将の心意気と春の気配を感じながら、皆さんもぜひ登ってみてください。（野坂俊之）



鷲が巣城跡から見た宍道湖・斐伊川・出雲平野

★博物館講座のご案内

▼開館2周年記念講座

「日本古代の流通経済とものつくり ―宮都を中心に―」

5/6(日) 14時〜16時

【講師】 栄原永遠男 氏
さかえはらとむお

(大阪市立大学大学院 文学研究科特任教授)

●受講料 無料

●定員 80名(申し込み必要)

▼博物館職員リレー講座

①「平安時代のしまねの須恵器」

5/20(日) 14時〜16時

【講師】 原 俊二

②「弥生時代のしまね」

6/10(日) 14時〜16時

【講師】 坂本豊治

③「縄文時代のしまね」

6/23(土) 14時〜16時

【講師】 幡中光輔

●受講料 各300円

●定員 各80名(申し込み必要)

★博物館応援団!

ボランテニア団体紹介①

「出雲弥生の森公園

フレンドクラブ」

出雲弥生の森博物館は、多くのボランテニア団体の皆さまに支えられています。

「出雲弥生の森公園フレンドクラブ」は、会員数39名で、弥生の森公園の美化清掃活動を定期的に行なっている地元の団体です。弥生の森まつりなどのイベントの支援にも活動の輪を広げています。

会長の井上明男さんは、「弥生の森は、出雲の宝というよりも世界の宝です。この貴重な財産を、きれいな状態で皆さんに見てもらいたい。」と話します。

クラブの皆さん、いつもありがとうございます。



4/8の作業に参加された皆さん

★館長コラム①



史跡公園「出雲弥生の森」も、グランドオープンから二巡目の春を迎えました。

この冬は格別に雪が多く、吹雪いて向こうが見えなくなるような日もありましたが、それでもヒョドリの大群が林の中に棲(す)みついて、とてもにぎやかでした。例年よりは遅かったものの、梅が咲き、ウグイスが鳴きだしたと思つたら、もう桜の季節です。

公園の南部、芝生広場あたりの谷は、かつて梅園があったところです。四半世紀前、島根大学が西谷三号墓の発掘をしていたころにも、春先には調査の合間をぬって、ここの梅を見に来たものでした。その梅が今も元気に咲いているのはうれしい限りです。

春は弥生の森がいちばんはなやかに彩られる季節です。種々の花に包まれて、毎年、子供連れのお客さんでにぎわいます。

実は私には夢があります。中国地方に多い日本在来種のシロバナタンポポで公園をいっぱいにする

ことです。今、公園の東側にシロバナタンポポが群生する一角があるのですが、これを公園全山に広めたいのです。これまでも時々種子をまいていたのですが、残念ながらなかなかうまく育てることができません。

博物館常設展示の「西谷三号墓1/10模型」には、シロバナタンポポがたくさん咲いています。気付いておられましたか?

弥生の森にホトトギスの甲高い声が響きわたるのも、もうすぐです。

(渡邊貞幸)

※各種講座は、当館へ電話・FAXでお申込みください。(講座名・氏名・住所・連絡先を記入)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2012年4月
〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760
(TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617
(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
●入館料/無料(特別展等観覧料を除く)
●開館時間/9:00~17:00(入館16:30まで)
●休館日/火曜日(祝日の場合翌日)・年末年始